



体育科

公開授業②

-Challenge to Creative Lessons-

CCL

自分の動きが自分で「わかる」授業

第6学年 小早川 善伸



<日々の授業から>

私が体育の授業をしていてうまくいかないときのほうが多いが、「今日の授業よかったなあ」と思えるときも時々あった。そんな時は決まって子どもたちの「わかった」と「できた」という声を聴いた授業であった。そこで、いろいろな運動のポイントとなる言葉を考えたり、簡単にできることからスモールステップの場を設定したり、子どもたちのかかわり合いの時間を保障したりしてきた。ところがある子どもが、「自分の動きがどうなっているかよくわからない」とつぶやいた。自分の運動を見た周りの人々があれやこれやというが、それができているのかできていないのかはわからないというのである。

① 視聴覚機器の活用 (iPad)

そこで、お互いの動きを録画して、自分の動きを観察することができるようにする。実際に自分の動きを見ることができれば、体のどの部分をどう動かすとよいかわかってくると考えた。

② 掲示物の活用

その時、運動のポイントをいつでも確認できるように写真や図を使った掲示物を用意する。自分の動きを見て、手本となる動きとの違いからさらに深く自分の動きがわかるようになる。

③ かけ声の言葉づくり

さらに、動画や掲示物を参考にしながら、子どもたち同士かかわり合う時には、やはり言葉が大切である。言葉の不十分さ、不的確さから子どもたちの「わかる」が妨げられている。大切な動き方やポイントには、クラスでそれらを表す「言葉」をつくり、言葉も使って活発に、的確にかかわり合わせたいと考えた。

今回 iPad を選んだのは、画面がデジタルカメラに比べて大きいこと。子どもたち4人くらいでかかわり合いながら、撮った動画を見合うことができる。また、「レッスンパッドタイプ G」いうアプリケーションを使えば、撮った動画をコマ送りにして、体の動きを細かく観察することができる。以上の点から、iPad は有効な教具であると考えた。

iPad を使った授業は私もほとんど初めてで、子どもたちの反応も楽しみにしている。今回の私のねらいが子どもたちの欲求に沿ったものとして、授業を展開できるか気合が入る。授業をご覧いただき、率直なご感想・ご意見をお願いします。